

会 議 録

1 会議名

令和7年度第5回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・上越リゾートセンターくるみ家族園の利用料金改定について（公開）

【自主的な審議】

- ・自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和8年2月3日（火）午後6時30分から午後7時50分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 白木会長、高橋副会長、青山委員、石田委員、金子（弘）委員、金子（祐）委員、杉田委員（欠席者5名）
- ・福祉課： 丸田課長、内田副課長
- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：杉田委員、高橋副会長に依頼

議題【報告事項】上越リゾートセンターくるみ家族園の利用料金改定について、福祉課へ説明を求める。

【福祉課：丸田課長】

・挨拶

11月6日の協議会において、くるみ家族園の条例を改正し、利用料金の上限額を改定させていただくことを報告させていただいた。

その後、12月議会で条例改正が成立したので、本日は実際の利用料金についてご報告させていただく。

【福祉課：内田副課長】

・資料No.1「上越リゾートセンターくるみ家族園の入浴料金改定について」に基づき説明

今後のスケジュールについては、今回の料金改定について、広報上越3月号や市のホームページへの掲載、くるみ家族園の館内にチラシを掲示するなどして周知していきたいと考えている。

【白木会長】

質問等を求めるがなし。

－ 福祉課 退室 －

【白木会長】

次に、議題【自主的な審議】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

12月18日に北諏訪まちづくり振興会との意見交換会を行った。振興会からは8人、協議会からは10人が参加し、AとBの2つのグループに分かれて意見交換を行った。

ここで、各委員から意見交換会を振り返って、感想を共有したいと思う。

【白木会長】

それでは、石田委員から順番に感想をいただきたい。

【石田委員】

私はAグループで話をさせてもらったが、一言で言うと、問題点を共有することに話を絞ったので、お互いに問題となっていることを確認し合ったというところで終わって

しまったように思う。去年の3月だったと思うが、澤海理事長から、振興会の現状について説明をいただいた。それを基に話し合うテーマを設定したので、お互いにその問題意識を確認するところでまとまってしまった。違う視点の意見が少なかったという感想である。

【青山委員】

私はBグループだったが、地区の運動会等、どうしたら北諏訪区が盛り上がるかというようなことを話した。世代によって、いろいろな意見が出てきてよかったが、今後どうするのか、どうしていくのかまで話が進まなかったのが、今後、まちづくり振興会と協力しながら少しでも進めていければと思った。

【杉田委員】

出席された振興会の方の中にも、地域協議会の役目や、どういう活動をしているのか知らない方がおられた。お互いにそういう部分があるということに気が付いたところである。

【高橋副会長】

終始穏やかな雰囲気が発言がしやすかった。皆さんからいろいろな意見が出て、大変充実した意見交換会だったと思う。これからも、まちづくり振興会と連携して、地域活動に取り組んでいければと感じた。

まちづくり振興会の若手の方の都合がつかず欠席であったが、若い方の意見もお聞きできればさらにいいと思う。

【金子（祐）委員】

私はBグループだったが、今皆さんも言われたように、いい話し合いだったのではないかと率直に思った。お互いに知らないこともあり、私はまちづくり振興会の皆さんの話を初めて聞かせていただいたが、意外にざっくばらんに意見交換ができた。1回だけではなくもう少し回数を重ねていけば、私自身も何か考えが出てくるのではないかというのが率直な意見である。

【金子（弘）委員】

私もBグループに参加した。すこやかサロンの具体的な内容についてお話も聞けて非常に興味深かった。地域の高齢者と小学校や保育園との交流が深められていて、世代間交流が図られているということと、非常にスタッフの方々の創意工夫があり、地域にいらっしゃる方を講師としてお招きしたり、体験を組み入れて子どもたちにサロンに参加

してもらい交流したりと、すごく工夫されたり発想が豊かでいい取り組みだということを感じた。

サロンを実施されている方からは、小さな積み重ねをコツコツとしていくという言葉があり、そうやって継続することが大事だと思った。みんな気負わずに取り組んでいっしょにすることが、後々の協力者の広がりにもつながっていくのではないかと思い、意見交換会の後、サロンで子どもたちとの交流があるということで、お手伝いでサロンに参加した。小学生とニュースポーツをやったり、カレーを一緒に食べたり、とてもいい体験をさせてもらった。こういう形で裾野が広がっていくといいと思った。

もう一つは、高齢者の移動手段についてだが、ずっと課題とされてきており、これは避けては通れない話ではないかと感じた。市内のみならず、北諏訪区も高齢化率が高くなっており、これから先のことを考えると、ますます高齢化率が上がり、世帯構成も高齢者の独居や高齢者のみの世帯が増えていくと思う。地域としてどのようにしていくかは、この先もう少し掘り下げていったほうがいいと思う。先ほどから振興会との連携というお話が出ていたし、私も大事な組織だと思うので、何らかの形で関わっていきながら、話し合いをしたり、いろいろなことで知恵を出し合っていけたらいいのではないかと感じた。

【白木会長】

皆さんからご意見をいただいたので、私から少しお話したい。

Bグループだったと思うが、運動会の件でお話をされていた。私も以前お話ししたことがあるかもしれないが、コロナ禍になってから非常に縮小されてきている。ご存知のように、コロナ禍の前は、この地域の皆さんが地域ぐるみで学校とタイアップしながら大勢の方から参加していただいて、非常に活気のある運動会だったが、今は小学生たちだけで運動会をしているというような状態なので、地域住民の皆さんが参加する部分が少ない。学校やまちづくり振興会と今後いろいろな協議を重ねながら、運動会をどうするのかということについて協議していけば、少しは地域の皆さんが参加していただく場面が多くなるので、いいことではないかと思う。

もう1点、金子（弘）委員からお話があったが、すこやかサロンも、参加者が特定の方になってきてしまって、固定化されてきている。地域の皆さんへの浸透度について、まちづくり振興会でも動いていると思うが、町内会でもいろいろ考えながらやっていければいいのではないかと思う。町内会長連絡協議会でも、ほかの町内会長の皆さんと地

域の活性化のために何をするのかという部分について協議を重ねたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

それでは、事務局へ続きの資料の説明を求める。

【石崎係長】

次に、協議会で審議をしていくことを検討していただきたい。

・資料No.2「北諏訪まちづくり振興会との意見交換会まとめ」に基づき説明

皆さんから、この分野が重要ではないかという意見とその理由をいただきたい。

【白木会長】

高橋副会長から願ひする。

【高橋副会長】

「地域の交流促進」の分野の「新たな交流機会の創出」については、ファミリー綱引き大会や運動会、まつりっちあたりは、ずっと継続してやってこられた。残念ながら今、運動会はできていない状態だが、参加される方が、ある程度固定化されているのではないかと感じている。これらの取組の中で新しい交流を生み出すというのは、限られた人との交流になってしまうので、まちづくり振興会と協議会で協議をして、何か新しいものを生み出して参加を促してみてもどうか。世代にもよるので、世代間で楽しめるもの、それだけを追及するとかなり難しくなってしまうので、高齢者も大人も子どもたちも楽しめるもの、世代を分けてもいいと思うが、最初は少人数でも、とにかく地域の人との交流を生み出すことを始めてみてはどうかと思う。

「安全安心な地域」の分野については、能登半島地震の時に私は地域の役員で、新年会でお酒を飲んで酔っ払っている時に地震が発生した。町内からの指示ですぐに小学校の体育館へ向かったが、停電にならなくてよかったと思う。体育館の中は寒かった。避難されている方は、体育館の中と教室、小学校の駐車場まで車で来られて、車の中で待機されている方もいらっしゃったが、てんでバラバラで、誰がどこにどのように避難したのか、把握することは一切できなかった。町内から指示されたことは、上千原の住民が何人避難しているか、人数だけ報告してほしいということだった。このような自然災害はいつ起きるかわからないので、来るものだと思いながら対策をしていったほうが、皆さんの命、財産を守っていく上で大事ではないかと思う。避難行動要支援者への避難支援ということで、先日上千原の町内会でこの話が出たが、一人暮らしの方や、この人は何組に住んでいるか、しっかりと町内会長から説明があったので、そういった部分は

各町内で対応できればいいのではないかと思っている。

「高齢者の移動手段」については、課題は多いが真剣になって取り組んでいかないと、年を取って運転免許証を返納したら、どこへも行けない区になってしまう。そうなると孤立してしまうので、対策が必要だと考えている。大切だと思う分野については、「地域の交流促進」と「安全安心な地域」の中間地点を選ばせていただいた。

【杉田委員】

地域協議会内で地域の課題について話し合った時にもいろいろな意見が出た。その時に交流を促進する中でも大切なのはコミュニティではないかと思った。

私は今、東中島に住んでいるが、福橋の境界もわからないし、上千原がどの範囲までか大体でしかわからない。散歩をしたことがあるが、どこまでが歩いて問題ない範囲なのかがまずわからない。自分の差し障りのないところで散歩をするので、なかなか地域の人と交流をするきっかけや機会がないというのが、高齢者を含めてあると思う。もともとこちらで生まれ育たれた方は、その辺はおわかりだと思うが、高齢者が一番お金をかけずに交流が図れる方法としては、適度な運動と会話というところだと思う。

振興会でもポールウォーキングをやられているが、例えば散歩コースがABCというような形であって、なおかつスタンプラリーのような特典がつくのであれば、高齢者も楽しみながら、目標を持ちながら参加ができると思う。自由参加の中で知り合いになる機会があると、趣味等、話をする機会が出てくるのではないか。そのような中から交流の促進につながればと思う。

いろいろなアイデアがあると思うが、まず知り合って趣味や好みが重なるような出会いがあればというようなことを常日頃感じている。

【金子（祐）委員】

私の大切だと感じた分野は、各分野のちょうど真ん中の少し「安全安心な地域」寄りである。

今ほど高橋副会長が話していた交流というところに私も共感できた。前回Bグループに出させていただいて、すこやかサロンのお話が非常に面白くて、小学校等と交流しているという話を聞いて、現にうちの子どもも昨年1年生だったが、昔遊びで交流したと家に帰って来て楽しそうに話していた。子どもが興味を持つものを出せば必ず保護者がついてくるので、そこで新たな交流ができればいいのではないかとということと、個人的には、もっと地域のことを知りたいということもある。

なぜ安全安心のほうに寄ったかという、私は消防団に入っている、そういった意味でも小さい子から高齢者の方まで一緒に交流できれば、どこにどういう人がいるということも把握できるので、交流を安全安心につなげていきたいというのが私の意見である。

【金子（弘）委員】

私も「地域の交流促進」と「安全安心な地域」の両分野が重なったところが大切と考える。

「地域の交流促進」というのは、新たなものが出てくれば、それに越したことはないと思うが、既存のまつりっちやすこやかサロンを基盤にした取組を継続していくことによって、交流の広がりにつなげていければいいのではないかと思う。

「安全安心な地域」というのは、ある程度地域の実態を知ることが必要になってくると思っていて、それは隣近所の情報から集められるものでもあるが、交流促進を深めていくことで安全安心な地域にもつながっていくということで、ここの部分は表裏一体ではないかと思っている。金子（祐）委員の今のご意見と重なる部分ではないかと思うが、地域を知ることが、そのまま、安心して、より安全に暮らしていけるということにもつながっていくと思うので、そこのところを選んだ。

【石田委員】

意見交換会を通じて思ったことは、振興会で今成果を出されている、例えば綱引きやまつりっちは成功しているのでいいと思うが、協議会としては、振興会の中の分野ごでもっと何か活発にやっていただけるようなことを、話をしながらアドバイスするような形でしてもらえればいいと思う。だから、大切な分野は「安全安心な地域」のあたりになると思う。

協議会の活動としては、振興会を通じてやれるものはしてもらえばいいし、町内会等とタイアップしなければいけないことというのも、協議会としてあるのではないかという気もしている。例えば、先ほどの移動手段の話は、振興会だけでは駄目だろうと思うし、町内会等との意見出しはやらなければいけないと思う。それから、避難訓練の話が出たが、それも町内会として、しっかり道筋を立てなければいけないし、それに関わるお金が必要であれば、このようなお金の使い方かどうかというようなことを、協議会で話して町内会に持っていけばいいと思う。そういうことをここで話をしていくのがいいと思う。だから振興会に全部やらしてもらおうようなものではなくて、そういうことが大

事なのではないかという気がした。

それから先ほどイベントの話が出たが、イベントは確かに交流する意味ではすごく大事だろうと思うが、新しいイベントを作って出てきてもらうことも大事だが、イベント以外でも交流できることもあるのではないかと。例えば先ほど趣味の話が出てきたが、町内会で趣味の集まりがあれば、地域全体で同じ趣味の人を集めるようなやり方などである。だから、一括りにして新しいイベントをやる、運動会をやれば交流が進むのではないかというような発想ではないことでやっていけたらいいのではないかと。

【青山委員】

私は、「地域の交流促進」と「振興会への理解の広がり」の真ん中あたりが大切な分野かなとの意見を持った。

私は、地域協議会に参加しなければ、北諏訪まちづくり振興会が何をやっているのか、メンバーが誰なのかということがわからなかった。振興会と話をして、とてもいいことをやってると思った。すこやかサロンの内容もチラシで入ってくるが、あまり見ないでスルーしていた。人は限定されるのかもしれないが、話を聞けばいいことをやっているのではないかと思う。

ニュースポーツの話が出ていたが、地区運動会はハードルが高いと思うが、ニュースポーツであれば、幅広い世代ですぐできるのではないかと思った。

どの団体もそうだが、同じ人が複数の団体に所属している。これはなんとかならないものかと思っている。この北諏訪区地域協議会も4年1期だが、もっといろいろな人に参加してほしいと思った。

【白木会長】

地域の広がりというのは、今、振興会から一生懸命やっていただいているが、先ほど金子（弘）委員が言われたように、なかなか裾野が広がっていない。だから、町内会長が町内の皆さんに声掛けをしながら、いろいろな団体があるので、そのところへの浸透を図っていくのが一番だと思う。

それから、杉田委員からもお話があったが、散歩していても、今の若い人はどこが境界なのか知らない。挨拶をしない。町内を歩いていて会うのだから、当然、その町内の人なのだが、それすら挨拶ができない。

【杉田委員】

我々世代は散歩していても小さな子どもに声なんてかけられない。不審者と思われて

しまう。それがあるので、先日のさいの神に、親御さんと一緒に来ている子どもさんに「こんにちは。」とこちらから声をかけても、黙っている、親も何も言わない。そういう状況だから、家の前で雪掘りしていて、通りがかった小学生に「こんにちは。」と言うと、ここの人だと分かるから「こんにちは。」と返してくれるが、散歩していたら不審者になってしまう。なかなか難しい。だから、ここが通っていい散歩のAコースだと分かっていたら、この人は散歩してるんだなど、徘徊ではなくて歩いているんだとわかってくれるのではないかな。

【石崎係長】

皆さんの話を聞いていると、「交流」が1つのキーワードとして出てきているのと、「交流を通じて地域を知ることによって安全安心につなげていく」というような意見が多かったのではないかなと思う。一方で、今会長が言われたように、それが上手くいっていない部分もある。

【白木会長】

犬の散歩に冬場は川端方面へ行き、40分くらいで帰ってくるが、春になり雪がなくなると、用水場まで行く。若鷹町の人たちに会うがお年寄りでも挨拶しない。それは交流がないからだと思う。

【杉田委員】

だから、イベントがあっても出ようという気持ちにならない。

以前お話したが、以前あった近所の鮮魚店におばあちゃんたちのコミュニティがあって、うちの年寄りに懇意にしてくれていた。そうすると、散歩中に花の株を誰だか知らないけれどもらってきたなど、そういうことにつながる。それが、お金のかからないきっかけづくりだと思う。

【白木会長】

それが必要である。470程度の世帯しかない北諏訪区なのだから。石田委員が言われるように、地域協議会とまちづくり振興会が、もっと積極的に働きかけをすればいいと思う。

資料No.2に高齢者の移動手段の話題があるが、市内には車を買っている振興会もある。北諏訪まちづくり振興会では、車を買うこと自体はやぶさかではないが、誰が運転して、誰が管理するという問題と、車庫がないという物理的な問題がある。

【高橋副会長】

ほかの区はどうか。

【石崎係長】

地域支えあい事業を請け負う住民組織は、市から補助金をもらって車を購入することができるため、多くの住民組織は事業開始時に購入している。購入後は住民組織の責任で、運転手を雇うか振興会のスタッフが乗って、サロンの参加者を迎えに行ったり、買い物ツアー等に連れて行くなどに使用している。

【内藤所長】

補助金で買うことはできるが、その後の維持管理や運転手の確保もある。今は定年が伸びて、60代でも会社勤めをされていて、運転手不足が課題になっていると聞いている。

【高橋副会長】

運転手を確保するだけでも大変な負担になってしまう。

私も町内の役員をやったときに、本当に会議が多くて、1月1日から新年会に行くが、若い人が全然来ない。役員が10人いたとして、ほかに来るのは12、3人である。申し訳ないが年配の方ばかりで、何を話していいかわからないというのが実態である。若い人がここに来て話ることがない、来ないという気持ちはわかる。私が5、6年前までそういう思いだった。そんなところへ行って新年早々何を話すのかとなり、だから参加しない、交流がない、近所の人顔を見ても、挨拶がない。親子くらい年が離れた人と話すのは難しいと思う。

手っ取り早いのは、先ほど石田委員が言ったように、趣味の合う人は来てくれるので、去年、まちづくり振興会の澤海理事長を中心として、ゴルフ大会をやってみた。声掛けが遅かったので6人しか集まらなかったが、これは第一歩で、無理のない程度に声掛けをしていき、今年は12人、来年は24人と毎年できるように目標を持って今やっている。

【白木会長】

趣味といえば、野球もいいのだが、子どもがいなくてチームができず、今年で消滅してしまった。寂しいかぎりだ。

【高橋副会長】

11月24日に公民館の主催事業で蕎麦打ち大会をやった。10人くらい参加されて、サロンの方も数名おいでいただいたが、若鷹の方が2人参加され、名前も顔も分からな

いが、すごく熱心で、自分で蕎麦を打つのが趣味ということだった。講師は、あるるん畑で蕎麦打ちをされている方で、好きな人は、スマホで動画をずっと撮影して、先生の作業を見て、メモをして、家へ帰ってまたやるということだった。本当に好きで熱心な方がいるんだなと思った。

【白木会長】

まちづくり振興会ができる前だったと思うが、将棋をやったが小人数ですぐに消滅してしまった。

金子（弘）委員、何か興味をそそるような趣味はないか。

【金子（弘）委員】

以前、健康マージャンがすごく人気で、そういうものをやれば集まるのではないかと太田委員から話があった。

【白木会長】

マージャンであれば私はすぐに参加する。

【高橋副会長】

私も参加する。やってみればいいと思う。

ただ、それを周知することが難しいらしい。回覧板だとスルーされてしまったり、公民館に掲示しても、そもそも公民館に来られる方が限定的である。健康マージャンをやるから行ってみよう誘い合えば面白いと思う。私も、小学校の同級生、男性は、ほぼ全員高校時代一緒にマージャンをやったので、7、8人はすぐに集まると思う。

【石崎係長】

金子（弘）委員、サロン等でそういうニーズはありそうな雰囲気か。

【金子（弘）委員】

私も、頻繁に顔を出しているわけではないので、そういう要望はわからない。参加される方は高齢者で、ほとんどが女性なので、今来られている方は、サロンの担当の方が用意したことに参加する楽しさを感じているので、自分たちで何かしていこうという感じではないと思う。

【白木会長】

サロンは男性が入りにくいような雰囲気がある。先日、金子（弘）委員も来られて、カレーライスを作って、子どもたちがボッチャをやって、公民館の上と下でいろいろなことをやっていた。私もカレーライスでも食べていこうかと思っていたが、男性がここ

に来ていいのかと思ってしまった。

【金子（弘）委員】

女性は口こみで声をかけられれば参加することが多いと思うが、男性は、自分がこれに行こうと思えば、誰かと一緒になくても1人で参加されると思う。そこに何か魅力があれば、誘い合わなくても、自分が行こうとさえ思うものがあれば、1人でも参加するのではないかと、以前仕事をしているときに感じた。

【内藤所長】

サロンはどこの地域も男性はあまり参加されないが、私が以前いた区は男性だけの日を作っていて、だんだん人数が増えてきて、集まると男の人たち同士ですごく喋っていた。その一步が踏み出せれば行くと楽しいと思うようになると思う。

【金子（弘）委員】

保倉でもやっていたと思う。男女混合ではなく、男性だけの日を設ければ意外と来てくれるのではないか。

【白木会長】

ファミリー綱引き大会は、以前はもっと盛り上がっていた。応援に町内会長にも声をかけたが、来たのは、私ともう一人だけだった。以前は町内会長が来て、終わったらここで反省会をやって盛り上がったものだが、だんだん尻すぼみになってきている。

【高橋副会長】

今年はサプライズで、すこやかサロンの方が7、8人、うちわを作って応援に来た。上越タイムスにも載っていたし、ああいう盛り上がりはいいと思う。

【白木会長】

地域でやってることだから、地域で応援しましょうという雰囲気づくりが一番大変である。

綱引きを見に来てくれというから行ったが、少なくてがっかりした。そして挨拶しない若い人ががっかりする。北諏訪区のゾーンへ行くので、当然北諏訪の人間だということとは分かっているはずだが、頭一つ下げない。こちらが下げても知らん顔である。がっかりする。どうしてこんなに駄目になってしまったのか。そこが、今、杉田委員が言われるコミュニティである。

【杉田委員】

大人の挨拶運動が必要ではないか。

【白木会長】

全然挨拶しない。どこのじいさんが来たのかという感じである。小学校の後援会長を十何年もやってるはずなのに、顔も分かっているだろうと思うが、それですら挨拶しない。

会話しなくても挨拶するだけでも全然違う。挨拶されるだけでも違う。

【高橋副会長】

今、偶然にフリートークのようにになっているが、こういうことが自然になっていかない。

【石田委員】

交流が無いと、顔見知りでないと、災害等のときに困る。それを心配している。しかし、例えば我々より上の世代は、スマホのようなコミュニケーションツールがなかったので、群れるということをしてきた。マージャン1つにしても、仲間で群れていた。でも多分子どもたちは、スマホ等で自分たちの知り合いのグループの中では、すごくコミュニケーションをとるが、一旦外に出ると、コミュニケーションがない世代だから、知らない人と喋ることに慣れていない。一緒の場で茶飲み話をしながら過ごすということに慣れていない。

災害になれば小学校等に集まらなければいけない。その時にどうするか普段からやっていないと、「なんだ、こいつ。」となってしまう、うまく避難生活ができないようなことが出てくると困ると思う。

【石崎係長】

具体的に協議会で審議していくことを決めようと思っていたが、今日、これだけのご意見が出たので、これを基にして、会長と相談しながら、次回、皆さんで検討いただけるような形にしたいと思う。この協議会で「これをやろう」というようなものを生み出していけたらと思う。

【内藤所長】

まちづくり振興会とも今後も話していけたらと思う。

【白木会長】

その他、事務局なにかあるか。

【石崎係長】

・次回協議会：会長と協議の上決定

【白木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。